

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.98

日時	2014年6月1日
行脚先	吉備津神社
住所	岡山県岡山市北区吉備津(備前国)
行事名	

特徴

吉備津神社は岡山市西部、備前国と備中国の境の吉備の中山(標高175m)の北西麓に北面して鎮座しています。

本来は吉備国の総鎮守でしたが、吉備国の三国への分割により備中国の一宮とされ、分霊が備前国・備後国の一宮(備前:吉備津彦神社、備後:吉備津神社)となったとされています。

足利義満造営とされる比翼入母屋造の本殿は、独特の「吉備津造」で、拝殿とともに国宝指定となっており、また社殿3棟が国重要文化財指定のほか、特殊神事の鳴釜神事が有名です。

黒田官兵衛との関わり

1582年、備中高松城水攻めの2カ月前、宇喜多家の家臣を案内人として蜂須賀正勝と黒田官兵衛がこの吉備津神社に参詣しています。吉備津神社の拝殿と本殿は、その157年前に足利義満の寄進で再建されていますので、蜂須賀と黒田の二人はこの建物を見たはずです。その際、二人から神主(堀家掃部)に織田信長から高松城主清水宗治に宛てた書状(備中を清水宗治に与えるという誓紙)が託され、神主はそれを高松城に届けています。それを受け取った清水宗治は、「信長公の御意に沿いたいところでありますが、長年毛利家に随い、天下の境目の守護を頼まれています。毛利家に背き、西国攻略の先鋒を勤めることは、恥辱であります。」と答えさらに、「備中一国を給わり栄華を誇ってみても、それでは世間に顔向けできません。この旨を信長公にお伝え下さい」と、返書をしたためています。吉備津神社の神主が持ち帰った返書を見た秀吉は、信長側に属しても恥辱にはならない。備中の国主になるのは武徳の顕れであるので、ぜひ味方について欲しいという書状を再び送っています。備前、備中の境にあった毛利方の7つの城のいくつかは、この文書によって秀吉方に寝返っていますが、備中高松城の清水宗治は、最後まで毛利方として戦ったのでした。

記録

